



# 飛鳥中だより

令和6年度 第4号

令和6年9月2日発行  
北区立飛鳥中学校  
校長 高田 勝喜  
〒114-0024

北区西ヶ原3-5-12  
03(3910)6175

飛鳥中学校  
教育目標

誇り高く 志をもち 自他を大切に生きる生徒  
自ら考え 心豊かに たくましく

## 夏の成果:留学生との交流と自然体験

夏休み直前の7月16日(火)から2泊3日で「イングリッシュ・キャンプ那須(2年生)」が、そして、7月26日(金)から2泊3日で「岩井臨海学園(1年生)」の宿泊行事が行われました。

災害級といわれる猛暑・酷暑が続く中、生徒たちの健康と安全面を最優先に、体調管理や熱中症対策を徹底しての実施となりました。

コロナ前同様の宿泊学習が実現でき「イングリッシュ・キャンプ」では留学生と、また、「臨海学園」ではライフセーバーの方々と、生徒たちはたくさんコミュニケーションをとり、それぞれのプログラムを満喫し、成果をあげてきました。

「イングリッシュ・キャンプ」では、世界各国からの留学生と3日間を共にし、英語力の向上や異文化・多様性の理解を深める貴重な機会となりました。ブラジル・ガーナ・ルワンダ・マレーシア etc からの留学生との交流を通じて、豊かな国際感覚を身につけたことでしょう。今後の英語

学習にも大いに役立つものと思います。

一方、「臨海学園」では、クラゲもまだ発生していない波の穏やかな岩井海岸でプログラムが行われました。自然の美しさや海の楽しさを体感し、命の大切さを学ぶ有意義な時間となりました。生徒たちにとって、夏休みのひとつの思い出として心に刻まれる活動になったことでしょう。

人と人が対面で交流し、学校を離れ、自然の中で過ごした特別な時間は、きっと生徒たちの成長につながるものと考えています。

1年生・2年生の保護者の皆様には、ご協力いただきありがとうございました。

また、7月29日には、文科省より「全国学力・学習状況調査」についての調査結果が公表されました。国語の平均正答率全国1位は石川の62%、数学は、東京・石川・福井が57%と並んでいます。本校の調査結果概要については、裏面をご確認ください。

9月からどうぞよろしくお願いたします。



留学生との会話を楽しむ2年生



留学生の国の文化を学んだ発表会



ライフセーバーと海を楽しむ1年生

「令和6年度9・10月の主な行事」 ※ 今後変更する場合があります。ご承知おきください。

日	9月行事予定	日	10月行事予定
9日(月)	1学期期末考査 ~ 11日(水) ※3年生:10日(火)・11日(水)	10月1日(火)	都民の日(学校閉庁日)
		2日(金)	防災学校(2年生)
14日(土)	第4回 土曜授業	5日(土)	島田第一幼稚園運動会(飛鳥中校庭)
	西ヶ原三和自治会防災訓練(1年生)	11日(金)	1学期 終業式
18日(水)	学校ファミリーの日(飛鳥中学校)	12日(土)	西ヶ原東保育園運動会(飛鳥中校庭)
20日(金)	連合体育大会(舎人陸上競技場)	15日(火)	2学期 始業式 学芸準備期間(始)
25日(水)	北区教育研究会(午前授業)	19日(土)	第5回 土曜授業(学芸発表会リハ)
27日(金)	生徒会役員選挙		午後:あすか祭(PTA主催)
30日(月)	校外学習(D組)	26日(土)	学芸発表会(給食あり)

今年度の「全国学力・学習状況調査」は、4月18日に、全国の中学校3年生（小学校6年生）を対象に、国語・数学の2教科で実施されました。

本校の「平均正答率」は、**国語が66%**（全国58.1%、都61%）、**数学が67%**（全国が52.5%、都が57%）となっています。全国の数値より大きく上回っている数値や領域が多く、3年間の系統的な指導の成果が出ていると言えます。

さて、今回紙面を割いて紹介したいのは「生徒質問紙」の解答結果です。これは日常や学校における様々な生活の状況を集約したものです。

『授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。』の質問に対して、以下の表のとおり、本校の生徒たちは積極的に対話や協働を大切にしていることが分かります。

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
飛鳥中	<b>54.9</b>	<b>42.3</b>	<b>2.8</b>	<b>0.0</b>
東京都(公立)	43.3	48.1	5.9	1.6
全国(公立)	46.1	46.2	5.4	1.4

本校で最も大切にしていると言っても過言ではない「対話」や「協働」、そして給食の準備や掃除、各教科の準備や行事での裏方の重要性を生徒自身が理解し、課題解決に取り組んでいる姿が数値として表れていると感じています。

また、そういった学級や学年・学校の「風土」が学力調査の数値となって顕在化しているのだと本校では考えています。

対して、本校特有の課題についてもお伝えいたします。

毎年、全国や東京都の数値と比較して低い数値となっている項目があります。

それは、『自分には、よいところがあると思いますか。』という質問への回答です。

	当てはまる	どちらかといえば 当てはまる	どちらかといえば、 当てはまらない	当てはまらない
飛鳥中	<b>29.6</b>	<b>49.3</b>	<b>14.1</b>	<b>7.0</b>
東京都(公立)	42.2	41.2	11.4	4.9
全国(公立)	40.4	42.9	11.8	4.7

数字で一喜一憂する必要はないと思いますが、日頃の生徒の様子を見ていると、このような低い数値が出るようには思えません。そこで何人かの生徒に尋ねたところ、驚くべき返答が返ってきました。

「良いところがあるかと言われればあるんですけど…、正直まだまだ足りないところが多くて、単純に良いところがあるとは言えません。」といった率直な意見がありました。

私はその返答を聞きながら、この地域の子もたちの「メタ認知能力」の高さや「自己評価」の厳しさを感じました。

と同時に、もっともっと生徒たちのありのままの良さを認め、自己肯定感を育む教育を推進していくことが重要だと改めて感じました。